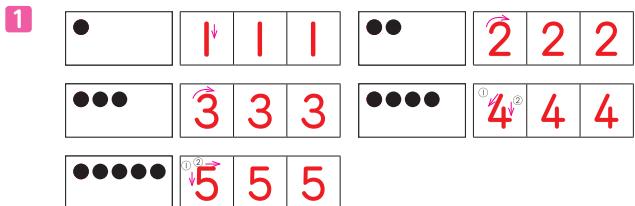


# こたえと アドバイス

## さんすう

### 1 5までの かず p.2

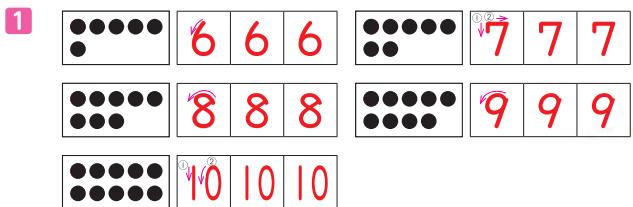


2 ①3 ②4 ③5

#### ★アドバイス★

- 数字の筆順や書き出す方向に気をつけているか、確認しましょう。まちがった書き方をしている場合は、何度も練習をして、正しく書けるようにさせてください。
- 「いち、に、さん、…」と、声に出して数えさせるとよいでしょう。その際、おはじきを置いたり、✓などの印をつけたりすると、数えまちがいをふせぐことができます。

### 2 10までの かず p.3



2 ①7 ②9 ③10

#### ★アドバイス★

- 2ページ1の5までの数と同様、数字の筆順や書き出す方向に気をつけているか、確認しましょう。7から10までの数字は、下のような誤った書き方をしていることがあるので、注意してください。

7 8 8 9 10

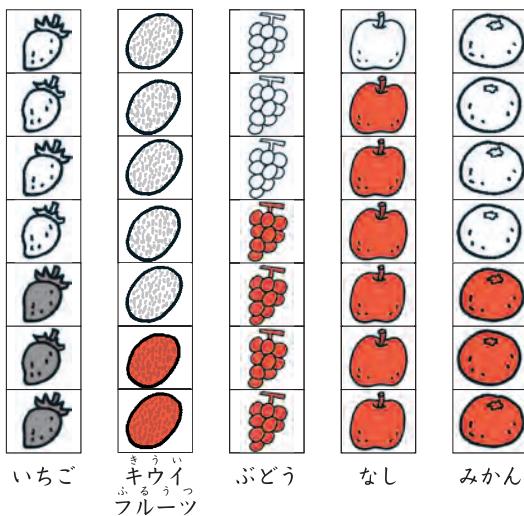
また、6や9は、左右が逆の鏡文字になっていることもあるので、注意させましょう。

- 2ページの2と同じように、「いち、に、さん、し、…」と、声に出して数えさせるとよいでしょう。数えまちがいがあったら、数字の数だけおはじき

などを並べさせて、数字と数の関係を確かめさせましょう。

### 3 かずしらべ p.4

1 ①



②4(つ) ③なし ④いちご (と) みかん

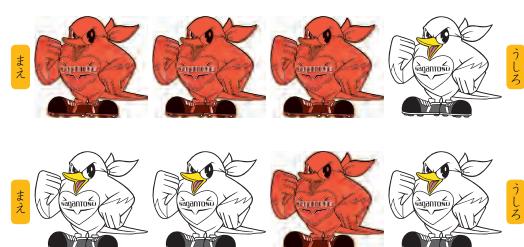
#### ★アドバイス★

- 色をぬる際には、2つの方法があります。例えば、キウイフルーツの場合は、キウイフルーツの数を数えて、その数だけ色をぬる方法と、絵のキウイフルーツ1個に印をつけてから色を1個ぬるという方法です。どちらの方法でもよいですが、色をぬるときには、数の多少がわかるよう、下から順にぬるよう指導してください。

### 4 なんばんめ p.5

1 ①2 ②5

2 ①



②



#### ★アドバイス★

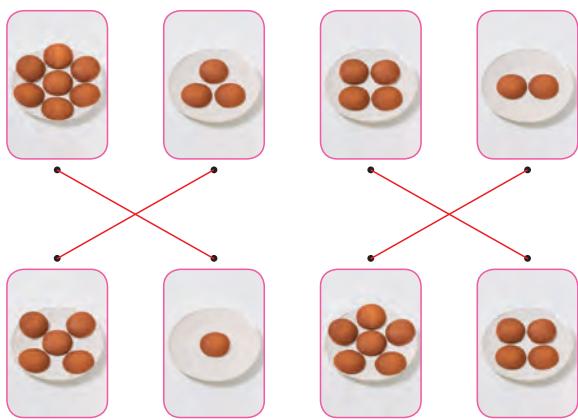
- 左から数えるのか、右から数えるのかに注意させましょう。①と②ができたら、①の藤田選手は右から何番めか、②の三丸選手は左から何番めかも確認しておくと、理解が深まります。
- ①の「前から3羽」はまとまりの数を表す集合数で、②の「前から3羽め」は順序を表す順序数です。「前から3羽」は3羽で、「前から3羽め」は1羽だけというちがいを認識させましょう。

## 5 いくつと いくつ①

p.6

- 1 ①2 ②1 ③4 ④3

2



### ★アドバイス★

- 1 「5は3といくつ」のような、数の分解の考え方を使います。サッカーボールの絵を使って、左から3個めと4個めの間に線をひいたり、えんぴつなどを置いたりして、数の分解の考え方を理解させましょう。
- 2 「7といくつで8」のような、数の合成の考え方を使ってみつけさせるとよいでしょう。なお、上のまるぼうろが7個のとき、まず、7といくつで8になるかを考えさせるのがよいでしょう。そのためには、それぞれのまるぼうろの数を近くに書かせておくとよいです。

## 6 いくつと いくつ②

p.7

- 1 ①5 ②7 ③8 ④6

2



### ★アドバイス★

- 1 まちがえたら、①の場合、最初に○を5個かき、10になるまで○をかきたして、かきたした○の数を数えさせましょう。「あといくつで10になるか」という見方は、2学期で学習するくり上がりのあるたし算での基礎となります。①の問題だけでなく、1~9のすべての数について、あといくつで10になるかをすぐに答えられるようになるまで、練習するとよいでしょう。
- 2 「9は2といくつ」、「いくつと7で9」という分解と合成の考え方を同時に扱った問題です。「7

は3といくつ」、「いくつと4で7」というように、お子さんと問題を出し合って、理解を深めるとよいでしょう。

## 7 あわせて いくつ

p.8

1 (しき)  $\boxed{1} + \boxed{3} = \boxed{4}$

(こたえ)  $\boxed{4}$  (こ)

2 (しき)  $4 + 3 = 7$

(こたえ) 7(まい)

### ★アドバイス★

- 1 「あわせていくつ」という合併の場面のたし算です。1個のボールと3個のボールを合わせると4個になることを式に表します。合併の場面の式では、たされる数とたす数が入れかわっていてもまちがいではありませんが、このような絵で表されている場合は、「左の数+右の数」で式を表すようにします。
- 2 式で表す場合は、+や=が正しい筆順で、正しい形で書いているかも確認します。なお、ユニフォームの数字にまどわされないように注意させてください。

## 8 ふえると いくつ

p.9

1 (しき)  $\boxed{2} + \boxed{3} = \boxed{5}$

(こたえ)  $\boxed{5}$  (にん)

2 (しき)  $5 + 4 = 9$

(こたえ) 9(こ)

### ★アドバイス★

- 1 「ふえるといくつ」という増加の場面のたし算です。合併のたし算とのちがいを理解させてください。はじめに2人いて、そこに3人増える場面なので、式は「はじめの数+増えた数」となります。「3+2」のように、たされる数とたす数が入れかわっていては、正しい式とはいえません。
- 2 ①と同様に、増加の場面のたし算なので、最初からある5個のコーヒーカップに、もうう数の4個を加えるたし算になります。結果的には、「あわせていくつ」と同じ操作をしていることを理解させましょう。

## 9 たしざん

p.10

- 1 ①6 ②5 ③8 ④9 ⑤8  
⑥7 ⑦10 ⑧10

- 2 (しき)  $4 + 5 = 9$   
(こたえ) 9(にん)

### ★アドバイス★

- 1 まちがえた問題は、すらすら答えられるように、何度も練習させましょう。答えが2から10までになる数のたし算は、全部で45あります。教科書にたし算のカードとして示されているので、実際にカードを作って、たし算の練習をさせるとよいでしょう。
- 2 この段階では、たし算の学習しかしていないので、問題の文章をじっくり読まずにたし算の式に表すお子さんがいます。この問題では、絵の子どもたちのビブスの色で、昨日入った1年生と今日入った1年生を分けています。「昨日入ったのは、だれかな」などと問いかけて、 $4 + 5$ の意味を理解させましょう。
- なお、ここでの答えには「にん」がつきますが、「こ」、「ひき」、「ほん」など、**数のあとにつく助数詞にも注意**を向けるよう指導してください。

## 10 のこりは いくつ

p.11

1 (しき)  $\boxed{5} - \boxed{3} = \boxed{2}$

(こたえ)  $\boxed{2}$  (こ)

2 (しき)  $7 - 5 = 2$   
(こたえ) 2(こ)

### ★アドバイス★

- 1 「のこりはいくつ」という求残（残りの数を求めること）の場面のひき算です。はじめに5個あった桃から3個あげると2個残ることを式に表します。「はじめの数 - 減る数」となるように式を書くことを、確認させましょう。
- 2 1と同様に、求残の場面のひき算です。はじめの数から食べた数をひけば、残りの数がわかると考えます。
- 求残の問題では、「はじめの数」、「減る数」、「残りの数」というとらえ方で考えることが大切です。これが理解できていると、「 $5 - 7$ 」のような書きまちがいはしなくなります。

## 11 ちがいは いくつ

p.12

1 ① (しき)  $\boxed{4} - \boxed{2} = \boxed{2}$

(こたえ)  $\boxed{2}$  (ほん)

2 (しき)  $6 - 3 = 3$

(こたえ) 3(こ)

2 (しき)  $7 - 3 = 4$   
(こたえ) 4(ひき)

### ★アドバイス★

- 1 「ちがいはいくつ」という求差（2数の差を求めること）の場面のひき算です。
- ① なすとアスパラガスを1対1対応させて、余った数が多い数となります。「多いほうの数 - 少ないほうの数」として式に表すことを、理解させましょう。
- ② 数のちがいとは、なしの数は清見オレンジの数より何個多いかをとらえることです。①と表現は異なりますが、**求差の場面**です。
- 2 まず、7と3では、どちらの数が大きいかに着目させます。ひき算では、「**大きい数 - 小さい数**」として式に表すことを理解させることが大切です。

## 12 ひきざん

p.13

1 ①3 ②2 ③7 ④1 ⑤2  
⑥7 ⑦3 ⑧8

2 (しき)  $8 - 4 = 4$   
(こたえ) おとな (が) 4(にん おおい。)

### ★アドバイス★

- 1 たし算と同様に、まちがえずにすらすら答えられるようになるまで練習させましょう。
- ひかれる数が2から10までの数のひき算は、45あります。たし算と同じように、教科書にあるようなひき算のカードを作って、何度も練習させるといいです。
- なお、10からのひき算は、2学期に学習する、**下りがりのあるひき算**で使います。何度も練習させておきましょう。
- 2 2数の差だけでなく、大人と子どものどちらが多いかまで答える必要があります。多いほうの数の8が大人の数であることに着目することが重要です。

## やくそく

### できる いるかな ..... p.18

#### ★アドバイス★

- ① いろんな場面でいさつができているかを確認します。朝は「おはよう」「おはようございます」、食事をする前は、「いただきます」などと選手と一緒に確認をしてみましょう。「ごはんをたべたあとは、どのようにいさつするかな？」など、お子さんに質問しながら確認できるといいでです。
- ② 感謝や反省の気持ちを伝えることができているかを確認します。**選手が素直に気持ちを伝えて**いる様子について話をしたり、お礼を言われたり、あやまられたりしたときにどのように対応するかの確認もできるといいでしよう。
- ③ 服をたたむこと以外にも、学校で道具箱やロッカーの整理整頓ができているかなどを確認してみましょう。サガン鳥栖の選手も、試合や練習に気持ちよくのぞめるように、ロッカーをきれいに整理整頓しています。
- また、夏休みは、家で、自分でできることを増やしていくきっかけにするのもいいですね。その際には、この本の巻頭に付いている「わくわく夏休みカレンダー」も活用してみてください。
- サガン鳥栖では、ウイントスが朝の登校時に佐賀県の各小学校を訪問し、いさつ運動を実施しています。

## ゆめ

### ゆめを かいて みよう！ ..... p.19

#### ★アドバイス★

夢に向かって、日々努力をしているサガン鳥栖の選手たち。夢を絵や文で書くことは、夢が目標に変わっていくための第一歩となります。**お子さんには、自分の思った夢を素直に書いていいことを伝えてあげましょう。**また、なかなか書けないときは、「将来何になりたい？」「大人になったらどんなことをしたい？」「今、がんばっていることは、何のために一生懸命やっているの？」などと

声かけをしてあげてください。表紙裏にある選手たちが自分の夢をかなえるために大切にしていることも一緒に確認できるといいでです。

「『人づくり』『まちづくり』『夢づくり』の実現のために」を、サガン鳥栖はクラブ理念のひとつに掲げています。

## せいかつ

### 1 どうろの あるきかた ..... p.20

#### 1

##### ①まがりかど

とびだす とまる  
( ) ( ○ )

##### ②おうだんはどう

とまる とびだす  
( ○ ) ( )

#### ★アドバイス★

- 1 小学一年生になると、活動範囲が広がります。友だちと行動したり、一人で行動したりすることも増えるので、道路の歩き方について確認をしておきましょう。曲がり角も横断歩道も、自動車や自転車に気をつけるために、まずはきちんと止まることが大事です。絵を見ながら、どうして、「みぎよし、ひだりよし、みぎよし。」と確認をしているのかと一緒に話し合ってもいいでしよう。キンミヨンヒ監督の言葉にある、「目を合わせること」についてもその理由を考えて話し合うといいでしよう。

### 2 じしんや かみなりの とき ..... p.21

#### ★アドバイス★

- 1 スタジアムにサッカー観戦に来た時に地震などが発生した場合の、安全な行動の仕方を確認します。絵を見たり、ウイントスの言葉を読んだりしながら、その場面になったときに、どうしてそのように行動するのかまで一緒に確認ができるとさらに理解が深まるででしょう。
- 2 スタジアムにいる時も、トイレに行くなどして、おうちの人と別の場所にいることがあります。地震が起きたら、まずどのように行動し、どこを集合場所にするかを確認しておくといいででしょう。

# こくご

## 1 ごじゅうおん ..... p.22

- 1 あいうえお  
かきくけこ  
さしすせそ  
たちつてと  
なにぬねの  
はひふへほ  
まみむめも  
や(い)ゆ(え)よ  
らりるれろ  
わ(いうえ)を ん

### ★アドバイス★

- 1 五十音は、言葉を学ぶうえで最も基本となるものです。すべてのます目に書き入れたら、「あそぼう あつまれ あいうえお」というように、あ行から順に声に出して読ませましょう。くり返して五十音を覚えさせましょう。
- か行の「かささぎ」は、佐賀県の県鳥です。

## 2 かたちの にて いる ジ ..... p.23

- 1 ①はた ②いぬ  
③かに ④ひまわり  
⑤しあい  
2 ①あひる  
②さくら  
③たいこ

### ★アドバイス★

- 1 ①「ほーは」、②「めーぬ」、③「にーこ」、  
④「ねーわ」、⑤「りーい」「あーめ」の区別  
ができるかどうかがポイントです。それぞれ、似  
ている字のどこが違うかを尋ねたり、違う部分を  
指し示してあげたりしましょう。
- 2 ①「あ」は「め」、「る」は「ろ」、②「さ」は「き」、  
「ら」は「ち」、③「た」は「に」、「い」は「り」  
と似ています。間違えないように注意させましょ  
う。間違えた字があれば、どこを間違えたのかを  
確かめさせましょう。

## 3 「・」や 「・」の つく ことば① ..... p.24

- 1 ①ふく ②ふた  
③かき ④さが  
2 ①めがね  
②ぼうし  
③かばん  
④えんぴつ

### ★アドバイス★

- 1 それぞれ、「・」がつくかどうかで別の言葉にな  
ってしまう例です。まず、絵が表しているもの  
何かを言わせてみましょう。  
③「かき」については、有明海で「竹崎力キ」が  
とれることを教えましょう。  
④九州や日本の地図を見せて、佐賀県がどこに  
あるのかを確認させましょう。
- 2 まず写真のものが何かを言わせてから、「・」や  
「・」をつけさせましょう。「・」や「・」を適切な  
位置に書いているかを見てあげてください。  
④「・」がつく文字は、ぱ行の「ぱぴふぺぽ」の  
五字しかないことを教えましょう。

## 4 「・」や 「・」の つく ことば② ..... p.25

- 1 ①くび ②ひだりあし  
③うで ④みぎあし  
⑤しんばん  
2 ①しっぽ  
②かびん  
③おにぎり

### ★アドバイス★

- 1 まず、ます目に入っている文字もヒントにして、  
それぞれの体の部分を言わせてみましょう。言葉  
を書いたら、「・」や「・」を適切な位置に書いて  
いるかなどを見てあげてください。
- 2 まず、ます目に入っている文字もヒントにして、  
それぞれの絵や写真の物が何かを言わせてみし  
ょう。言葉を書いたら、「・」や「・」を適切な位  
置に書いているかなどを見てあげてください。  
②有田焼は、世界的に有名な佐賀県の名産品で  
あることを教えましょう。

## 5 ものがたりぶんの よみとり① … p.26

- 1 ①(だれと)ようへい (どこで)こうえん  
②まうえ ③うれしく

### ★アドバイス★

- 1 ①一つ目のまとまりの二文目から読み取らせましょう。「ぼくは、ようへいさんと ちかくのこうえんで、……」とあります。ここでは問われていませんが、一文目からは、「いつ (きょう)」がわかるなどを確認しておきましょう。物語文では、このように、「いつ・だれが・どこで・なにをした」をとらえることが大切です。  
②三つ目のまとまりに、「ぼく」がリフティングの練習をしている様子が書かれています。「ボールを よく みて、できるだけ まうえに あげる ように ちゅういして、」の部分から、どんなことに注意しているかがわかります。  
③最後の文に注目させましょう。ようへいさんに「じょうずに なったね。」とほめられて、「ぼく」はうれしくなったのです。「ぼく」の気持ちを想像させてみましょう。

## 6 のばす おんの ある ことは … p.27

- 1 ①とうふ ②おおかみ  
③とけい ④ほうれんそう  
⑤せんべい  
2 ①ふうせん  
②おねえさん  
おおきな  
おうえん

### ★アドバイス★

- 1・2 「オー」とのばす音は、原則的には「う」と書きますが、「お」で表すものも少なくない（「おおかみ」「おおきな」「こおろぎ」「こおり」など）ので、一語一語確かめながら、覚えさせましょう。「エー」とのばす音を「え」と書くのは、2の②「おねえさん」と、返事などの「ええ」「へえ」くらいで、ほかは「い」と書くものがほとんどです。  
1の①「とうふ」については、佐賀県は日本でも有数の大豆（豆腐の原料）の産地で、豆腐作りに適した水も豊富なので、嬉野温泉の名物「温泉湯豆腐」などのさまざまな豆腐が作られていることを教えましょう。

## 7 ちいさい 「や・ゆ・よ」や「っ」の つく ことは① … p.28

- 1 ①ちゃんわん  
②唐津じょう  
③きて  
④ぎゅうにゅう  
2 ①でんしゃ・りょこう  
②きゅうばん・くついた

### ★アドバイス★

- 1・2 小さく書く「や・ゆ・よ」や「っ」を、ます 目の正しい位置に書いているかを見てあげてください。また、これらの音を含む言葉は、発音に慣れることも大切です。書き終わったら、それぞれの言葉を声に出して読ませましょう。「ちゃ」や「じょ」などの、小さく書く「や・ゆ・よ」で表す音は、「ちゃ」や「じょ」のような二音で読むのではなく、二文字を一音で読むことに注意させましょう。

## 8 ちいさい 「や・ゆ・よ」や「っ」の つく ことは② … p.29

- 1 ①ききゅう  
②あくしゅ  
③じゃんけん  
2 ①ゆうしょう  
②おきゃくさん  
③いつしょうけんめい  
④れんしゅう

### ★アドバイス★

- 1 まず、それぞれの写真がどんな物や場面かを言わせてから、書かせましょう。小さく書く「や・ゆ・よ」をます目の正しい位置に書いているかを見てあげてください。  
2 まず、それぞれの言葉は正しくはどう言うかを言わせてから、書かせましょう。小さく書く「や・ゆ・よ」や「っ」を、ます目の正しい位置に書いているかを見てあげてください。  
3は、小さく書く「っ」と「よ」が入っている言葉です。一方だけ直していないか、注意して見てあげましょう。